

# 那須岳の噴火警戒レベル

— 火山災害から身を守るために —

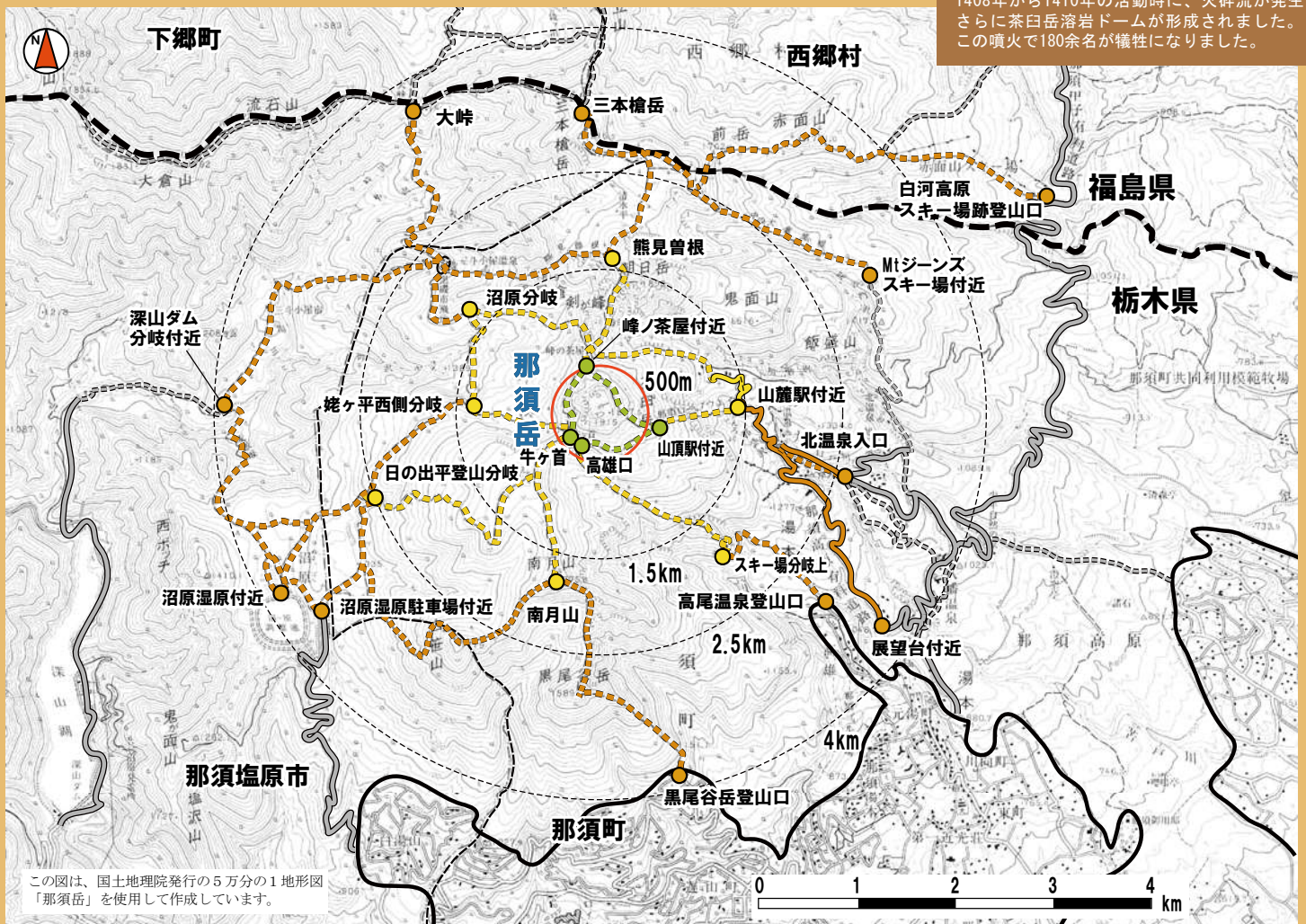
## 噴火警報等で発表する 噴火警戒レベル

- 噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5の5段階に区分したものです。
- 各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています（レベル5は「避難」、レベル4は「避難準備」、レベル3は「入山規制」、レベル2は「火口周辺規制」、レベル1は「活火山であることに留意」）。
- 対象となる火山が噴火警戒レベルのどの段階にあるかは、噴火警報等でお伝えします。



那須岳の火山活動について  
1408年から1410年の活動時に、火砕流が発生し、さらに茶臼岳溶岩ドームが形成されました。この噴火で180余名が犠牲になりました。

### ■那須岳 噴火警戒レベルと規制範囲



この図は、国土地理院発行の5万分の1地形図「那須岳」を使用して作成しています。

●噴火警戒レベルに応じて下記のような防災対応が必要になります。

- レベル5（避難）：危険な居住地域からの避難等。
- レベル4（避難準備）：警戒が必要な居住地域での避難準備。
- レベル3（入山規制）：山頂から2.5km程度内の立入規制。  
 県道 ————、登山道 ———— は通行できません。
- レベル2（火口周辺規制）：山頂から1.5km程度内の立入規制。  
 県道 ————、登山道 ———— は通行できません。
- レベル1（活火山であることに留意）：状況に応じて火口内への立入規制等。  
 登山道等 ———— は通行できません。

- 一般道路：———
- 行政区分境界：- - - - -
- 主な規制地点：●●●●
- 登山道：———
- 居住地域：○
- 想定火口域：○

■この図は「那須岳火山防災マップ」（那須町、那須塩原市、栃木県、平成14年3月）に基づき作成しています。

■那須岳の噴火警戒レベルは、地元自治体等と調整して作成しました。各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については那須町、那須塩原市、下郷町、西郷村にお問い合わせください。



本冊子は、植物油インクを使用しています。



問い合わせ先

気象庁 地震火山部 火山監視課 火山監視・警報センター  
 TEL: 03-6758-3900(内線5189) <https://www.jma.go.jp/jma/index.html>  
 ■宇都宮地方気象台 TEL:028-635-7260  
<https://www.jma-net.go.jp/utsunomiya/>  
 ■福島地方気象台 TEL:024-534-2162  
<https://www.jma-net.go.jp/fukushima/>



# 那須岳の噴火警戒レベル

種別	名称	対象範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等
特別警報	噴火警報(居住地域)または噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●噴火が発生し、火砕流、融雪型火山泥流(積雪期)が居住地域に到達、あるいはそのような噴火が切迫している。または大きな噴石が概ね4km程度の範囲に飛散する噴火が切迫、あるいは発生。  過去事例 1410年: プルカノ式噴火発生、その後火砕流が約8km流下、泥流の発生
			4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での避難準備、要配慮者の避難等が必要。	●火砕流、融雪型火山泥流(積雪期)が居住地域まで到達するような噴火、または大きな噴石が概ね4km程度の範囲まで飛散するような噴火の発生が予想される。  過去事例 1408~1410年: 水蒸気噴火が頻発
警報	噴火警報(火口周辺)または火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。状況に応じて要配慮者の避難準備。 登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。	●中規模噴火が発生し、山頂から概ね2.5km程度まで大きな噴石が飛散。 過去事例 1881年: 水蒸気噴火発生 ●中規模噴火の発生が予想される。 過去事例 事例なし
		火口周辺	2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。 火口周辺への立入規制等。	●小規模噴火が発生し、山頂から概ね1.5km程度まで大きな噴石が飛散。(ごく小規模噴火含む) 過去事例 1953年, 1960年, 1963年: 水蒸気噴火発生 ●小規模噴火の発生が予想される。 過去事例 事例なし
予報	噴火予報	火口内等	1 (活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	状況に応じて火口内への立入規制等。	●火山活動は静穏、状況により山頂火口内及び一部火口外に影響する程度の噴出の可能性あり。

注1) ここでいう「大きな噴石」とは、概ね20~30cm以上の、風の影響をほとんど受けずに弾道を描いて飛散するものとする。

この噴火警戒レベルは、地元市町村等と調整の上で作成したものです。各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、関係する各市町村にお問い合わせください。

■最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでもご覧になれます。  
<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>